

# 孫戸妍(ソン・ホヨン)氏肖像



スワニーホワイエに掲げられている孫戸妍さんの肖像と短歌

スワニーホワイエに韓国の歌人、孫戸妍（ソン・ホヨン）さんの肖像写真と、孫さんが詠んだ歌が日本語と韓国語で掲げられています。

せつじつ のぞ ひと われ いさか くに くに  
「切実な望みが一つ 吾にあり 諍いのなき 国と国なれ」

日本の教育者であり万葉史研究で知られる中西進氏によってしたためられたこの書は、2005年6月、韓国で日韓首脳会談が行われた際、当時の小泉純一郎総理大臣が記者会見の席上で引用したことで有名になった孫さんの歌です。

孫さんは韓国人の両親のもと日本に生まれ、韓国に帰国後、学業のために再び日本に戻り帝国女子専門学校で学んだあと、韓国人としてのアイデンティティと日本での経験から美しい日本語で短歌を詠むことで、日韓両国の文化的な架け橋の役割を果たしました。80年の生涯で詠んだ歌は 2000 首をこえると言われていています。いつか日本の地に歌碑を建てたいという夢を持っていたところ、思いに共感した協力者が現れるなど様々な偶然や幸運が重なり歌碑の建立が実現することになりました。



中西進氏



尾駮レイクタウンにある孫戸妍さんの歌碑

1997年6月、経団連専務理事・糠沢和夫氏（役職当時）、附田建設株式会社会長・附田義美氏らのご尽力により、尾駮レイクタウンにあるスワニーの近隣地に念願の歌碑が建立されました。歌碑建立ののち、その功績を広く知ってもらおうとスワニーに肖像写真が飾られることになりました。



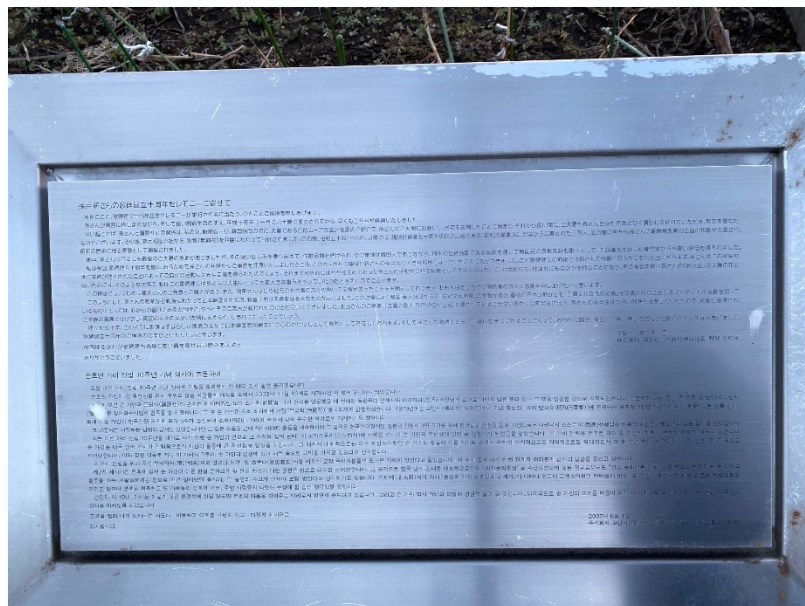
経済団体連合会専務理事 糠沢和夫氏



附田建設株式会社会長 附田義美氏



歌碑除幕式参列者名簿。左側が韓国出席者、右側が日本出席者



株式会社講談社 6代社長、野間佐和子氏によるお祝いの言葉。歌碑十周年記念式典にて

# 歌人 孫戸妍



孫戸妍 Son-Hoyun (1923-2003)

## 【略歴】

1923年11月15日、当時、早稲田大学の学生だった父孫洪九のもと東京生まれる。

生後間もなく帰国。

40年、帝国女子専門学校(相模女子大学の前身)に留学。

43年、に同校卒業後、帰国。日本の文部省より京城舞鶴高女教諭に任命される。その間、歌誌「心の花」の主催者、佐々木信綱博士に師事し、短歌を詠み始める。

44年、韓国に帰国し21歳で処女作「戸妍歌集」を講談社より出版。

47年に李允模(イ・ユンモ)氏と結婚、一男四女をもうける。その間、朝鮮動乱による三年余りの避難生活を体験。夫は韓国商工部の特許局長を務め、特許分野の発展のために貢献。退官後は国際工業所有権保護協会(AIPPI)の韓国支部長を長年務める一方、自身の特許事務所を経営した。

78年、万葉集や他の古典文学の研究のため三度来日、昭和女子大学大学院に学んだのち成城大学大学院で中西進教授(現・大阪女子大学長)の指導を受ける。

58年、講談社より「無窮花」出版。

68年、講談社より「第二無窮花」、80年に「第三無窮花」を出版。

83年11月、夫の急逝。

90年、夫との別れを詠んだ歌々を「第四無窮花」にまとめて出版。

※参考文献 「風雪の歌人 孫戸妍の半世紀」(北出明著)講談社出版・孫戸妍歌集(李承信編集)

